

2017Japan National Team Report ” サポーター”



報告者氏名	西村 進一
大会名	ヨーロッパ選手権
開催地	ブルガリア・ブルガス
大会期間	7月30日~8月5日

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 - 1 このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 - 2 なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 - 3 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について

このレポートを補足する資料として必要な場合は、文中に貼り付けて下さい

開催地域の様子	ブルガリア4番目のこじんまりとした都市。昔から貿易が盛んな港町で、ヨーロッパ 独特の古いけど瀟洒な町並みが続く観光地。近くに黒海に面したビーチがあり、欧州からの観光客も多く見られた。物価がとにかく安く、生活しやすい(宿泊・食事・タクシー・飲み物は、日本の1/4~1/2のイメージ)。港町・観光地らしく街の人々はおおらかで気さくな感じ。
宿泊場所	サポーターは公式ホテルから歩いて5分のところのアパートメント(2LDK)。キッチンや洗濯機がついていて、毎日、選手・コーチの乗艇着を洗濯、おにぎり等の沖弁も作ってあげることができた。冷蔵庫も完備しており、冷えたジュースやミネラルウォーターの準備も万全。1Fにあるバー&ダイニングは人気で一度みんなで食べに行って、とてもおいしかった。
大会のサポーターへの対応は	サポーターは公式ホテルへの出入りが自由で、オフタイムは選手・役員と問題なく連絡を取ることができた。サポーター専用のリストバンドを着用し、パースに入ることを禁止されていたが、パース至近のテントのある日陰に日本チームの陣地を敷くことができたので、選手・役員との連絡は問題なかった。また、真に止む無くパースに入りたい時は、警備のおじさんに事情を伝え許される時もあった。
選手たちのコンディションいつもとどうでしたか？	途中体調を崩した選手がいたが、サポーター母が作るおかゆやケアで何とか治った。
サポーターとして気をつけたことは？	選手が安全に不安な気持ちにならないように、また自分の力を最大限出し切れるように気を付けた。夜は夜更かしをしないよう指導。ハーバーまでの道順を調べたり、タクシーの予約を取ったりして、熱いさなか体調を壊さぬようケア。ハーバーでの探し物や不安事、食べたい物等を聞いてやり、不安を取り除くようケアした。
海外の選手を見て感じたことは？	日本人と同じように体格の小さな選手も多くみられたが、とても大きい女子選手(見た目60キロ超)もいてびっくりした。ヨーロッパの選手は、なぜか総じて日本好き。『日の丸』と『必勝』が書かれた鉢巻が大人気。日本のことを良く知っていてびっくりした。

日本の選手を見て感じたことは？	海外の選手と接して、動揺したり、気落ちしたりするのかもしれないや、全く動じなかった(4人とも)。最初から最後までヨーロッパ選手権を楽しんでいた(すごい)。
Spare day の過ごし方は？	スペアデイはありませんでした。 ホテルが観光地のど真ん中にあっただので、2～3時間誰かを散策したり、レストランに行ったりして街を楽しみました。
日本チームとしての課題はありましたか	みんなまじめに一生懸命がんばっていました。チームワークも良かったです。外国の選手と交流を積極的に行っていました。目標のゴールドにはいけませんでした、上位の選手との差はほとんど無く、来年以降の頑長川に期待したいです。
JODAへの要望	チーム全体での合宿があまりできなかった、サポート(資金面や合宿の頻度増等)いただければ有難かったです。
その他	今回は海外遠征経験豊富な保護者が多く、遠征前の準備・段取りがスムーズで、大会での対応も非常に強かったです。親子ともども貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会